

## 聴覚障害者用バンダナの拡大活用が実現！

朝霞市第4回定例会一般質問での質問と答弁の要旨



聴覚障害者用バンダナ  
大きいので災害時は三角巾の活用も

このバンダナは私が平成24年12月の一般質問で訴え、東日本大震災の避難所での教訓を基に、まずは災害備蓄品として実現したものです。その後拡大を訴えてこなかったことは反省しています。今回、手話で支援活動する方から、当事者も必要だが支援する側の人に持たせて欲しいとの声がありました。4月に「朝霞市日本手話言語条例」が施行されたことも受け現在の備蓄品を最小限にし、支援者への配付ができないか伺います。また、今後予算もつけていただき当事者へと手話通訳講習終了者などへの配付も含め、拡大の推進を強く要望します。

答弁：将来発生する災害を想定するだけでなく、日頃から災害に対応するため、例えば、手話通訳者などの支援者にあらかじめ配布しておくことも、有効な支援策ではないかと考えておりますので、現状での備蓄の見直しを行い、有効利用してまいります。

**前向きな答弁いただきました！**

## だれにでもやさしいまちづくりを！

朝霞市第4回定例会一般質問での質問と答弁の要旨

### コミュニティーマップ

高齢者の通いの場合は、よく自宅より半径500mに通いの場があり、1か所ではなく複数の場へ通うことが理想と言われます。市民主体で積極的な活動で登録などしていない団体も把握し、市が情報を共有して発信することも市民活動を支援することにもなると思います。

答弁：介護予防事業を、高齢者に身近な地域包括支援センター毎に実施する中で、地域に存在する住民主体の様々な活動団体の活性化と、情報の一元化を推進してまいります。今後情報の把握に努め、情報提供を行ってまいります（長寿はつらつ課）また、地域で活動するすべての団体に、理学療法士などの専門職から効果的な指導が受けられるよう取り組んでまいります。

### バリアフリーマップ

事前にバリアフリー対応の情報があつて、外出支援につながるのではないかと。市でもこのような対応ができればと思います

答弁：ねらいとしては、障害のある方などの外出を促し飲食店や施設を訪れることで、障害のある方やバリアフリーへの理解を深めることにもなります。誰もが使いやすい工夫することで、地域振興にもつなげることができます。今後調査会研究をしていきたい。



社会福祉協議会出前講座  
車いす体験で、普段何気ない  
段差などが当事者には大き  
なストレスとなるとわかりま  
した。

## 心のバリアフリーの推進を強く訴える

地域での相談で、自閉症の子どものため、ある施設を利用したいと手続きを進めたが、最終的に「健常の子どもに怪我をさせては困る」と利用を断られてしまい、とても悔しい思いをし、このような思いをする人をなくして欲しいと痛切な声をいただき一緒に涙しました。今年4月には障害者差別解消法が施行され、議会でも強化をと訴えてまいりました。障害とは、障害者本人が思うことではなく、障害者の方々が接する社会の側に障害があると思います。相手を理解するには交流することが一番だと思います。今後、障害者理解のためにも交流する機会をつくるなど、来年度から始まる、障害福祉計画、障害者プランの策定の中で、ぜひ検討をしていただきたいと思います。

答弁：気軽に語り合える場を設けることは、お互いの理解が深まり「心のバリアフリー」へとつながると考えますが、交流の場としては少なかつたと考えられますので今後も様々な機会を捉えて、障害者理解の普及に取り組むと共に、周知の方法も含め、平成29年度に予定されている障害者プラン・障害福祉計画を策定する際に検討したいと考えております。



### その他の質問

- ・防災施策（防災の言葉について/災害時のトイレについて）
- ・環境整備施策（道路修繕等後の振動、騒音について） 他



## 「介護の日フェスタ」の様子が公明新聞に掲載！



11月11日（介護の日）のイベントに実行委員会副代表として関わりました。現場第一で民間活動にも参加する中で、見えてくる課題や声があります。今後も地道に誠実に取り組んでまいります。

平成28年12月20日公明新聞掲載

## 地域の小さな声が形になりました！



**幸町2丁目旧道付近**  
急坂道に手すりをとの声に幅員の狭い道路のため工夫と調整をし、ガードパイプを新設と修繕し手すり代わりとしました。この対応に大変喜んでいただきました

